

## 加硫促進剤のビンキュアー性について (4)

前回<sup>1)</sup>に引き続き、ジチオカルバミン酸塩系加硫促進剤配合ゴムのビンキュアー性について紹介する。

図1に、加硫促進剤配合ゴムを40℃で処理した時のtc(10)の変化率を示した。PPD, TTFE, TTCUは、同様な傾向がある。

図2から5にそれぞれの加硫曲線を示した。配合ゴムを40℃で処理することにより加硫が遅れる。TTCUの変化は小さい。次回、加硫促進剤の併用系について紹介する。

### 実験

前回<sup>2)</sup>通り。

### 参考文献

- 1) NOC技術ノートNo.558, 日本ゴム協会誌; 80(6), 会告131 (2007)

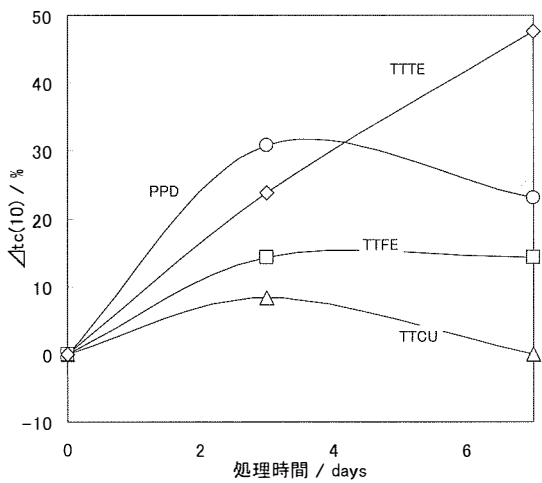


図1 配合ゴムの40℃放置後におけるtc(10)の変化率

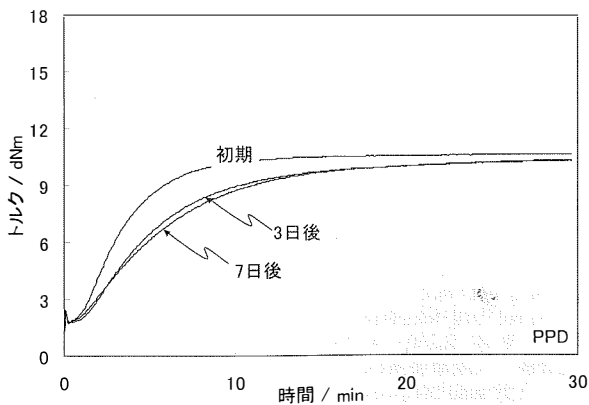


図2 PPD配合ゴムのビンキュアー性

- 2) NOC技術ノートNo.556, 日本ゴム協会誌; 80(4), 会告89 (2007)

ここに記載した内容は、細心の注意を払って行った試験に基づくものでありますが、結果をすべて確実に保証するものではありません。

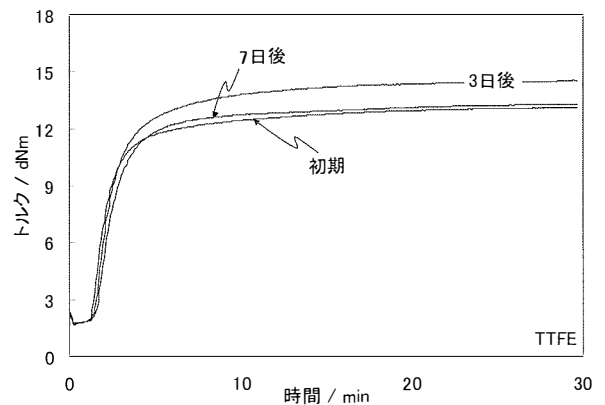


図3 TTFE配合ゴムのビンキュアー性

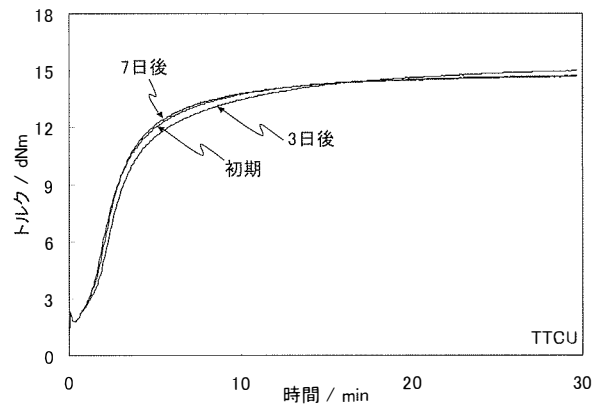


図4 TTCU配合ゴムのビンキュアー性

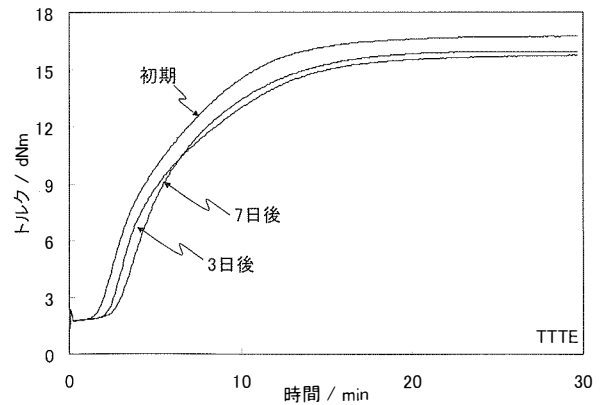


図5 TTTE配合ゴムのビンキュアー性